

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02251

研究課題名（和文）現代社会におけるツーリズム・モビリティの新展開と地域

研究課題名（英文）New Developments in Tourism Mobilities and Regions in Contemporary Society

研究代表者

神田 孝治（KANDA, Koji）

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：90382019

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、現代のツーリズム・モビリティの新展開に注目し、それがどのような特徴を持ち、いかなる性質を有する多様なモビリティによって構成されているのかといった点を、特定の地域に注目するなかで検討した。こうした研究は、「科学技術の進展とツーリズム」、「ダークツーリズム」、「サブカルチャーとツーリズム」、「女性とツーリズム」、「アートとツーリズム」、「文化/歴史遺産とツーリズム」という6つのテーマを軸に実施され、日本における観光研究を新しい段階に押し進める研究成果を生み出したと考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2000年頃から、英語圏においては「移動論的転回」と呼ばれる一連の議論を受けたツーリズム研究が進展していた。こうした研究は、新たなる知的パラダイムの下でなされたものであるが、日本においてはかかる研究があまり進展していなかった。こうしたなかで本研究では、とりわけ探究が遅れていた現代社会におけるツーリズム・モビリティの新展開に焦点をあて、それを地域に注目するなかで複雑な関係性を読み解くことを試みた。この研究成果は、学会等とのコラボレーションを通じて広く観光研究者に公開され、特に日本の観光研究の進展に貢献したと考える。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on new developments in contemporary tourism mobilities. Specifically, it examines the attributes that these new tourism mobilities exhibit, as well as how such mobilities consist of many different mobility types. These factors were studied while focusing on specific regions. Our research was conducted with respect to the following six topics: “advances in science technology and tourism”; “dark tourism”; “subculture and tourism”; “women and tourism”; “arts and tourism”; and “cultural/historical heritage and tourism”. By detailing these topics, this study has been able to produce results to advance tourism studies in Japan.

研究分野：文化地理学，観光学

キーワード：ツーリズム

様式 C - 19, F - 19 - 1, Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

人文・社会科学におけるツーリズム研究は、1990年代以降に活発化している。かかる状況を生じさせた重要な研究として、J.Urryが著した*The Tourist Gaze* (1990年発行)を挙げることができる。同著でUrryは、「ツーリストのまなざし」という概念を提起し、その社会的な構造化・組織化の様相を検討すると共に、人文・社会科学におけるツーリズム研究の重要性を主張したのである。この研究を契機としつつ、文化論的転回と呼ばれる1980年代後半以降の学際的な知的潮流と連動するなかで、文化の政治性、文化と経済の関係性、そして文化の移動といった点に着目した新しい観光研究が活発化した。なかでも、表象に注目し、記号や構造の検討を行う観光研究が盛んになった。

しかしながら、1990年代後半以降、人文・社会科学における研究の潮流に大きな転換が見られ、2000年代に入るとそれが明瞭となる。これは構造から出来事を重視した研究への転換であり、必然性から偶然性へ、表象・記号から物質・身体・行為へ、そして静的で固定したものから動的で流動的なものへと焦点が移り、二項対立的な認識を乗り越えてハイブリッドやネットワークが注目されるようになった。こうした中で、文化論的研究の潮流の中で注目されつつも、表象に注目した研究のなかで後景に退いていた旅や観光などの「移動」の問題が注目を集めるようになった。こうした潮流は、2000年代中頃に「移動論的転回」として知られるようになり、モビリティはグローバル化する現代社会を理解するためのキーワードとなった。

かかる議論を主導していたUrryは、M.Shellerと編集した2004年発行の*Tourism Mobilities*において、この「ツーリズム・モビリティ」に注目する理由を、ツーリズムが単にモビリティの一形態であることを述べたいのではなく、人、モノ、輸送機関、動植物、イメージといった様々なモビリティがツーリズムを形づくり、ツーリズムが行われる場所がいかに創造・破壊されるのかに焦点をあてるためであると論じている。さらにUrryは、「ツーリストのまなざし」についても、J.Larsenと共に2011年に発行した*The Tourist Gaze 3.0*において、五感と連動した身体化されたハイブリッドな行為として再概念化し、ツーリストはカメラなどの機械と共にグローバルに「移動するハイブリッド」であると述べるようになった。このように、近年の英語圏における人文・社会科学で注目されるモビリティのなかで、特にツーリズムは議論の焦点となり、多様なモビリティの関係性が論じられると共に、物質・身体・行為やハイブリッドへの関心と連動した新しいツーリズム研究の地平が切り開かれたのである。モビリティに注目してツーリズムについて考察することは、人文・社会科学における先端的な知的領野になっているといえる。

こうしたモビリティに注目した英語圏における研究動向は、日本においても受容され、新たな研究段階に移行しつつある。特にUrryの研究を中心に翻訳が進み、例えば2007年発行の*Mobilities*は2015年に『モビリティーズ』(吉原直樹・伊藤嘉高訳、作品社)として、2011年にJ.Larsenと共著で発行した*The Tourist Gaze 3.0*は2014年に『観光のまなざし 増補改訂版』(加太 宏邦訳、法政大学出版局)として出版されている。さらに2010年にUrryがA.Elliottと共に著した*Mobile Lives*は本研究組織構成員が中心となり翻訳して2016年11月に『モバイル・ライブズ』(遠藤英樹監訳、ミネルヴァ書房)として発行され、さらに2016年7月の観光学術学会第5会大会では、先のJ.Larsenを招聘して「ツーリズム・モビリティ」と題したシンポジウムを本研究組織構成員が中心となって実現した。研究開始当初において、日本における観光研究も、本研究組織構成員が主導するなかで、モビリティに注目した新しい研究を行いはじめている状況にあった。

## 2. 研究の目的

上述の国内外におけるモビリティに注目した観光研究の状況、および本研究組織構成員のこれまでの実績に基づき、本研究では主として2つの観点から新たな研究の地平を切り開くことを目指した。1つは、「現代社会における新しいツーリズム・モビリティ」への注目である。Urryを中心とする英語圏におけるツーリズム・モビリティ研究においては、新しい科学技術との関係性が特に注目されるが、近年世間の耳目を集めた拡張現実(AR)を用いたポケモンGOのブームをはじめとして、かかる点において見られる新しい展開への検討はまだほとんどなされていない状況であった。また、既存の研究においては、女性やサブカルチャー、ダークツーリズムなどに注目した新しいツーリズム・モビリティに関する検討がまだ不十分であると考えられた。こうした未だ考察が十分になされていない、現代社会における新しいツーリズム・モビリティの検討を行うことが本研究の目的の1つであった。

これに加えて、本研究では「地域に焦点をあてたツーリズム・モビリティの検討」を行うこととした。このように「地域」に注目することで、「グローバルに展開する多様なモビリティの関係性を理解できる」と共に、「ツーリズム・モビリティを特定の文化・社会的文脈の中で考察できる」という利点を有するからである。さらに、地域に焦点をあてた既存の観光研究の視座にモビリティという概念を入れることで、「ホストとゲストを単純に対比するようなこれまでの二項対立的な観光研究の刷新を図れる」こともある。加えて、「物質性や身体・行為に焦点をあてるモビリティ研究と、それ以前の構造・表象を検討する文化論的研究を架橋し、その『間(あわい)』を問う視座が、様々な出会い・出来事が生じてツーリズムが行われるまさに『地域』に注目することで得られる」ことも理由である。こうした から の観点から地域に焦点をあてたツーリズム・モビリティ研究を行うことで、ツーリズム研究、さらに人文・社会科学全体のさらなる発展に貢献することを目的とした。

### 3. 研究の方法

本研究では、バーチャル・リアリティ (VR) や AR をはじめとする科学技術の進展ともなうツーリズム(「科学技術の進展とツーリズム」)、近年急速に世間の耳目を集めるようになった死・災害と関係するツーリズム(「ダークツーリズム」)、聖地巡礼をはじめとする日本を中心に世界的に新しい展開をみせているサブカルチャーがひきおこすツーリズム(「サブカルチャーとツーリズム」)、現代社会において急速に発達・変容を遂げている女性のツーリズム(「女性とツーリズム」)、近年急速に進展しているアートに焦点をあてたツーリズム(「アートとツーリズム」)、ますます多様な対象が観光資源化されその様相が変転し続けている文化/歴史を対象としたツーリズム(「文化/歴史遺産とツーリズム」)という、現代社会における6つの新しいツーリズム・モビリティに焦点をあて、かかるテーマを掲げた研究グループを組織した(各主担当2名・副担当2名)。また、モビリティに注目する本研究課題の特性上、各担当者は時にそれぞれのテーマを越境しつつ、全体として協力しながら研究をすすめることを方針とした。

具体的には、モビリティに注目したツーリズムの理論研究と、フィールドワークや資料調査に基づく特定の地域に焦点をあてた事例研究を、双方向的な考察を行いながら進めていくこととした。多様な学問分野をベースとしたメンバーから成る本研究課題では、研究会などにおける情報交換や議論を通じて、多角的視座を各研究に反映していくこととした。また、本研究組織構成員が主導する観光学会におけるイベントなどを通して、海外の研究者との情報交流・議論も行うこととした。

### 4. 研究成果

本研究課題の取り組みによって、観光学会から2019年に学会賞を授与された、ARがもたらす移動や観光について論じた神田孝治・遠藤英樹・松本健太郎編集の書籍『ポケモンGOからの問い 拡張される世界のリアリティ』(新曜社, 2018)など、「科学技術の進展とツーリズム」に関わるものを中心として、「5. 主な発表論文等」に掲載したように多くの研究成果が生み出された。

とりわけ本研究課題における研究成果の特徴として、観光学会などとの連携によりシンポジウム等を実現し、そこを通じて研究成果の発表がなされ、かつ研究交流が行われたことがある。2017年度開催の第1回研究会は観光学会・人文地理学会地理思想研究部会と共催で「ツーリズム、モビリティ、セキュリティ」と題したシンポジウム(於: 神戸山手大学, 司会: 神田孝治, 発表者: 松本健太郎)を、第2回研究会は観光学会と共催で「おみやげは越えていく オーセンティシティ・ローカリティ・コモディティ」と題したシンポジウム(於: 奈良女子大学, 発表者: 鈴木涼太郎)を実現した。2018年度開催の第3回研究会は観光学会・二松學舎大学と共催で「デジタルデバイスがツーリズムにもたらすものを展望する」と題したシンポジウム(於: 二松學舎大学, 発表者: 遠藤英樹・松本健太郎・高岡文章)と「デジタル時代の地図と観光」と題したフォーラム(於: 二松學舎大学, 発表者: 神田孝治)を、第4回研究会は立命館大学人文科学研究所と共催で「観光におけるグローバルな移動性(モビリティ)」と題したシンポジウム(於: 立命館大学, コーディネーター: 遠藤英樹, パネリスト: 神田孝治・須藤廣・山口誠)を実現した。2019年度開催の第5回研究会は、観光学会大会において「モビリティからツーリズムを問う」というテーマセッション(於: 立命館アジア太平洋大学, 発表者: 神田孝治・遠藤英樹・須藤廣・松本健太郎, コメンテーター: 橋本和也・高岡文章・鈴木涼太郎)を、第6回研究会は2nd International Conference of Critical Tourism Studies Asia Pacificにおいて「Tourism mobilities in Japan」と題したパネルセッション(於: 和歌山大学, 発表者: 神田孝治・橋本和也・須藤廣・山口誠, コーディネーター: 遠藤英樹・神田孝治, チェア: 遠藤英樹)を実現した。

こうした試みは、境界の融解について問うモビリティ研究に根ざした観光研究の特徴を生かし、本研究課題の成果を様々なコラボレーションを通じてより広く発信すると共に、そこでの研究交流を通じてより学術的な貢献を図ることを目指して行われたものであった。またそこで発表された研究は、第1回から第3回までの研究会に関するものについては、観光学会の機関誌である『観光学評論』に学術論文としても掲載され、さらなる研究成果を生み出している。加えて、第1回研究会はMike Crang (Durham University)、第2回研究会はAdam Doering (和歌山大学)、そして第4回研究会はTim Edensor (Manchester Metropolitan University)といった国際的に活躍する観光研究者を招いて実施し、第6回研究会では国際会議でのパネルセッションを企画しているように、国際的な研究交流・成果発表も実現している。

以上のように、本研究課題は、モビリティに注目した先端的な観光研究の知を広く国内外の関連する研究者に提供するとともに、特に日本における観光研究の進展に寄与することができたと考える。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 神田孝治	4. 巻 666
2. 論文標題 『Pokemon GO』のリアルワールドイベントと地域 2018年の横須賀市における事例に注目した考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館文學	6. 最初と最後の頁 131-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 藤巻正己	4. 巻 121
2. 論文標題 <観光のまなざし>が向けられる<ダークな記憶装置>としての日本統治期の建造物と旧<眷村>台湾のツーリズムスケープ瞥見(1)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 33-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34382/00012841	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 遠藤英樹	4. 巻 121
2. 論文標題 他者に寄り添い共生するゲームとしての「ダークツーリズム」「ダークツーリズム」から「ポリフォニック・ツーリズム」へ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 5-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34382/00012840	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 遠藤英樹	4. 巻 666
2. 論文標題 トランスナショナル・ディズニー モノが歩く世界	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館文學	6. 最初と最後の頁 114-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鈴木涼太郎	4. 巻 7-2
2. 論文標題 「一時的な楽しみ」がもたらす真正な観光経験 新潟県佐渡島の民俗芸能・鬼太鼓を通じた体験・交流プログラム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 143-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 濱田琢司	4. 巻 47
2. 論文標題 「地元有力者」とローカルな文化振興・文化運動 ヤハギ川観光協会から名古屋民藝協会の本多静雄	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西学院史学	6. 最初と最後の頁 51-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤木庸介・北山めぐみ・張天新・山村高淑	4. 巻 48
2. 論文標題 観光開発が歴史的市街地の伝統的民家に与えた影響 2017年時における中国雲南省麗江市旧市街地を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間文化	6. 最初と最後の頁 26-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24795/nb048_026-032	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 神田孝治	4. 巻 119号
2. 論文標題 『Pokemon GO』が生じさせる移動と観光振興	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 119-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤英樹	4. 巻 7巻1号
2. 論文標題 観光をめぐる「社会空間」としてのデジタル・メディア メディア研究の移動論的転回	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 51-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Sudo	4. 巻 Vol.3, No.2
2. 論文標題 Japanese tourists' image of Hawaiian Japanese Locals: A focus on tourism reality shift	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Asian Journal of Tourism Research	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本健太郎	4. 巻 7巻1号
2. 論文標題 旅をめぐるイマジネーションの現在 トリップアドバイザーがシミュレートする「想像による旅」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高岡文章	4. 巻 7巻1号
2. 論文標題 観光のつながりの社会学 もう一つの大衆観光について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 37-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高岡文章	4. 巻 17号
2. 論文標題 観光をめぐる自由と不自由 ルート観光論からのアプローチ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西日本社会学会年報	6. 最初と最後の頁 7-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤巻正己	4. 巻 119号
2. 論文標題 チャイナタウンはもはや“チャイナタウン”ではない!“外国人労働者の街”だ! クアラルンプルの<ツーリズムスケープ>瞥見	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 29-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木涼太郎	4. 巻 6巻2号
2. 論文標題 旅するマトリョーシカ 移動するおみやげのルーツとルート	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 153-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神田孝治	4. 巻 656号
2. 論文標題 『Pokemon GO』が生みだした新たな観光客についての考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 205-219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本健太郎	4. 巻 6巻1号
2. 論文標題 都市空間におけるモビリティとセキュリティ ポケモンGOに随伴する移動と「統語論的關係の優位化」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 109-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideki ENDO	4. 巻 Vol.2, Number1
2. 論文標題 “ Transference of Traditions ” in Tourism: Local Identities as Images Reflected in Infinity Mirrors	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asian Journal of Tourism Research	6. 最初と最後の頁 102-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤英樹	4. 巻 656号
2. 論文標題 パフォーマンスなダークツーリズムの可能性 「パフォーマンスィヴィティ」概念に関する批判的検討を通じて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 220-235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤英樹	4. 巻 128号
2. 論文標題 ツーリズム・モビリティーズ研究の意義と論点	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関西学院大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 9-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 鈴木涼太郎	4. 巻 11号
2. 論文標題 民俗芸能体験を通じた地域連携・交流・教育プログラム 新潟県・佐渡島「夏の彩典 たかち芸能祭」への学生参加	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 観光ホスピタリティ教育	6. 最初と最後の頁 22-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuya Hashimoto	4. 巻 Vol. 2, Number 3
2. 論文標題 Local art Festivals and Local Culture Tourism: Is Local Art 'indigenized' as local culture?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asian Journal of Tourism Research	6. 最初と最後の頁 25-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 濱田琢司	4. 巻 18号
2. 論文標題 窯業地・瀬戸の伝統性とその評価 民芸運動の「産地語り」と瀬戸本業窯についての覚書	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 南山大学日本文化学科論集	6. 最初と最後の頁 23-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 濱田琢司	4. 巻 4号
2. 論文標題 新たな「場」をひらく 益子参考館と東日本大震災から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人類学研究所 研究論集	6. 最初と最後の頁 45-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計39件（うち招待講演 12件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 神田孝治
2. 発表標題 モビリティに注目したツーリズム研究の視座
3. 学会等名 観光学術学会第8回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koji Kanda
2. 発表標題 The New Mobile Assemblages Caused by Pokemon GO
3. 学会等名 2nd International Conference of Critical Tourism Studies Asia Pacific (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本健太郎
2. 発表標題 観光に憑依するハローキティ コンテンツ文化 / 異文化への導入段階におけるその役割
3. 学会等名 観光学術学会第8回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤英樹
2. 発表標題 モビリティから都市研究をとらえかえす 「モビリティ3.0」時代における「都市研究の観光論的転回」
3. 学会等名 観光学術学会第8回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤英樹
2. 発表標題 ミュージック・ツーリズムにおける「情動のライン」 リヴァプールの聖地巡礼を主な事例として
3. 学会等名 日本ポピュラー音楽学会第31回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideki Endo
2. 発表標題 Tourism in Mobile Digital Age: The Japanese Cases of Travelling Material Things
3. 学会等名 2nd International Conference of Critical Tourism Studies Asia Pacific (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 須藤廣
2. 発表標題 ポストモダニティにおける観光のあり方の変容について ニューツーリズムの社会学的再検討
3. 学会等名 観光学術学会第8回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroshi Sudo
2. 発表標題 What is new tourism?: A sociological examination of new tourism production on and consumption in Japan
3. 学会等名 2nd International Conference of Critical Tourism Studies Asia Pacific (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Michiyo Yoshida
2. 発表標題 Promotion of Jewish tourism in Japan: Revival of the forgotten Japanese diplomat Chiune Sugihara as a hero for saving refugees during the Holocaust
3. 学会等名 Euro Geo Conference: Hidden Geographies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Michiyo Yoshida
2. 発表標題 The media-induced tourism of female history fans: Connecting virtual and 'real' worlds
3. 学会等名 2nd International Conference of Critical Tourism Studies Asia Pacific (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口誠
2. 発表標題 観光、メディア、コミュニケーション
3. 学会等名 日本コミュニケーション学会 第49回年次大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Makoto Yamaguchi
2. 発表標題 The past as a tourism resource: Legacy, heritage, and memory in contemporary Japan
3. 学会等名 2nd International Conference of Critical Tourism Studies Asia Pacific (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木涼太郎
2. 発表標題 シシマイがつなぐもの 民俗芸能を通じた地域と大学の交流活動
3. 学会等名 東京シシマイコレクション シシマイフォーラム 2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本和也
2. 発表標題 オリンピック観光：オリンピックが拓く観光の新領域 アスリート、パラアスリートをめぐって
3. 学会等名 観光学会第8回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuya Hashimoto
2. 発表標題 Regional Art Festivals Prompting Tourists' Mobilities
3. 学会等名 2nd International Conference of Critical Tourism Studies Asia Pacific (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 濱田琢司
2. 発表標題 モノと地域性 創作玩具・農民美術・新作民芸、それぞれの実践から
3. 学会等名 第35回民族芸術学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神田孝治
2. 発表標題 地図と新たなモバイル・アセンブリッジ 『Pokemon GO』によって生じる観光に注目した考察
3. 学会等名 観光学会第7回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koji Kanda
2. 発表標題 The various aspects of hospitality in tourist places: A case study of Yoron Island in Japan
3. 学会等名 International Conference on Future of the Past: Tourism and Cultural Heritage in Asia（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 遠藤英樹
2. 発表標題 デジタルな「虚構」によって「現実」化される観光 「情動のメディア」としてのモノのモビリティーズ
3. 学会等名 観光学会第7回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroshi Sudo
2. 発表標題 Japanese tourists' image of Hawaii locals: A focus on tourism reality shift
3. 学会等名 International Conference on Future of the Past: Tourism and Cultural Heritage in Asia（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本健太郎
2. 発表標題 デジタル写真が喚起する「想像による旅」 トリップアドバイザーによる「体験のシミュレーション」を考える
3. 学会等名 観光学会第7回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高岡文章
2. 発表標題 つかずはなれずの観光社会学 もう一つの大衆観光について
3. 学会等名 観光学会第7回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高岡文章
2. 発表標題 観光における「自由」と「不自由」 ルート観光論2.0
3. 学会等名 第76回西日本社会学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤巻正己
2. 発表標題 グローバル都市化するクアラルンプルのランドスケープ/エスノスケープ/ツーリズムスケープの変貌 その地誌的素描
3. 学会等名 人文地理学会2018年大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yosuke Fujiki
2. 発表標題 The actual situations of traditional dwellings in a World Heritage Site, the Old Town of Lijiang, Yunnan Province, China
3. 学会等名 International Conference on Future of the Past: Tourism and Cultural Heritage in Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuya Hashimoto
2. 発表標題 Rethinking Hosts and Guests: The anthropology of Tourism and the Future of Tourism Studies
3. 学会等名 International Conference on Future of the Past: Tourism and Cultural Heritage in Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋本和也
2. 発表標題 「ホスト・アンド・ゲスト」の2項対立を越えて モバイルな社会の観光研究
3. 学会等名 観光学術学会第7回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神田孝治
2. 発表標題 観光地における自由と歓待 与論島を事例とした考察
3. 学会等名 日本地理学会2018年春季学術大会
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 Koji Kanda
2. 発表標題 Hospitality and tourist mobility: A case study of Yoron Island in Japan
3. 学会等名 Critical Tourism Studies- Asia Pacific Inaugural Biennial Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本健太郎
2. 発表標題 人間とモバイルメディアとの関係を考える ポケモンGOを題材に
3. 学会等名 観光学会第6回大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山口誠
2. 発表標題 観光から社会を観る ツーリズム・リテラシーの可能性
3. 学会等名 日本観光ホスピタリティ教育学会2017年度全国大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木涼太郎
2. 発表標題 旅行商品におけるパワースポット “スピリチュアルなもの”の商品化は可能か
3. 学会等名 日本観光研究学会第32回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木涼太郎
2. 発表標題 旅するマトリョーシカ 移動するおみやげのルートとルート
3. 学会等名 観光学会第5回研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 濱田琢司
2. 発表標題 47都道府県を展示する 「d47」と現代の地域文化消費
3. 学会等名 日本地理学会2018年春季学術大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計24件

1. 著者名 橋本和也編（遠藤英樹）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 202
3. 書名 人をつなげる観光戦略	

1. 著者名 遠藤英樹・橋本和也・神田孝治編（山口誠）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 288
3. 書名 現代観光学 ツーリズムから「いま」がみえる	

1. 著者名 ジョン・アーリ著、須藤廣・濱野健監訳（神田孝治・遠藤英樹・高岡文章・鈴木涼太郎訳）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 322
3. 書名 オフショア化する世界 人・モノ・金が逃げ込む「闇の空間」とは何か？	

1. 著者名 高馬京子・松本健太郎編（遠藤英樹）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 226
3. 書名 越境する文化・コンテンツ・想像力 トランスナショナル化するポピュラー・カルチャー	

1. 著者名 須藤廣・遠藤英樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 241
3. 書名 観光社会学2.0 拡がりゆくツーリズム研究	

1. 著者名 松本健太郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 288
3. 書名 デジタル記号論 「視覚に従属する触覚」がひきよせるリアリティ	

1. 著者名 神田孝治・松本健太郎・遠藤英樹編（高岡文章・須藤廣）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 256
3. 書名 ポケモンGOからの問い 拡張される世界のリアリティ	

1. 著者名 谷島貴太・松本健太郎編（神田孝治）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 234
3. 書名 記録と記憶のメディア論	

1. 著者名 橋本和也	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 地域文化観光論 新たな観光学への展望	

〔産業財産権〕

〔その他〕

基盤研究B 現代社会におけるツーリズム・モビリティの新展開と地域(本科研情報webサイト)  
[http://www.ritsumeai.ac.jp/~kandak/kibanb\\_tourismobility.html](http://www.ritsumeai.ac.jp/~kandak/kibanb_tourismobility.html)

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	遠藤 英樹  (ENDO Hideki)  (00275348)	立命館大学・文学部・教授    (34315)	
研究分担者	須藤 廣  (SUDO Hiroshi)  (30275440)	法政大学・政策創造研究科・教授    (32675)	
研究分担者	松本 健太郎  (MATSUMOTO Kentaro)  (30558060)	二松學舎大学・文学部・教授    (32664)	
研究分担者	吉田 道代  (YOSHIDA Michiyo)  (40368395)	和歌山大学・観光学部・教授    (14701)	
研究分担者	高岡 文章  (TAKAOKA Fumiaki)  (50389483)	立教大学・観光学部・教授    (32686)	
研究分担者	藤巻 正己  (FUJIMAKI Masami)  (60131603)	立命館大学・文学部・教授    (34315)	
研究分担者	藤木 庸介  (FUJIKI Yosuke)  (70314557)	滋賀県立大学・人間文化学部・准教授    (24201)	
研究分担者	濱田 琢司  (HAMADA Takuji)  (70346287)	関西学院大学・文学部・教授    (34504)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 涼太郎 (SUZUKI Ryotaro) (70512896)	獨協大学・外国語学部・准教授  (32406)	
研究分担者	山口 誠 (YAMAGUCHI Makoto) (80351493)	獨協大学・外国語学部・教授  (32406)	
研究分担者	橋本 和也 (HASHIMOTO Kazuya) (90237933)	京都文教大学・総合社会学部・名誉教授  (34320)	